

東京園芸ニュース (28年度-41号)

平成28年9月 / 群馬県東京園芸情報センター

群馬県は甘くて美味しいなしの産地です！ ～ぐんまちゃん家でなしと観光果樹園の宣伝&アンケート調査～

- 日時：8月17日(水)～18日(木) 11:00～15:00 (モツ煮定食が売り切れ次第終了)
- 会場：ぐんまちゃん家2階イベントコーナー (東京都中央区銀座)
- 協力：JAはぐくみ、ぐんま総合情報センター、ぐんまブランド推進課

甘くてみずみずしい！本県産なしの食味は良好

ぐんまちゃん家2階で行われたモツ煮ランチイベントにて、旬を迎えている本県産のなしの試食宣伝とアンケート調査(食味評価等)を実施しました。

試食には県内一の産地であるJAはぐくみ産のなしを提供し、観光果樹園と併せて本県産なしのPRを図りました。

食味等の評価は右表のとおりで、おいしさが平均点4.1点(5点満点)となりました。

その他の感想として、「水分が多い割に、味もあって美味しかった。」、「シャキツとして美味しい。」、「甘味はあるが、みずみずしさがもの足りない。」、「もう少しシャキシャキしたものが好き。」等があり、個人差も見られました。



本県産なしの試食提供

本県産なしの食味評価

甘味	3.9
酸味	1.8
食感	4.2
おいしさ	4.1

※5点満点評価
※酸味評価は数値高いほど酸味が強いことを表す。
※回答数 206名

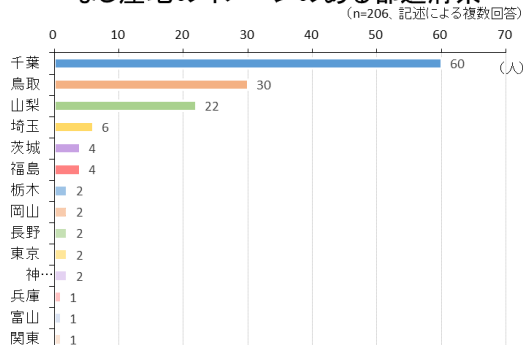
「梨の産地・ぐんま」の認知度は非常に低く、課題あり

アンケート調査によると、「なしの産地・群馬県」の認知度は全体の12%と非常に低い結果となりました。

また、なし産地のイメージのある都道府県として回答が最も多かったのは千葉県で、鳥取県、山梨県と続いています。さらに、本県産のなしの観光直売所へ訪れた経験がある方は全体の3%(7名)と少ない人数に留まりました。

本県産のなし生産では、市場出荷だけでなく、もぎ取りや観光果樹園が多いため、一般消費者の目に触れる機会は多くありません。しかし、担い手の高齢化や後継者不足という課題とともに、観光果樹園の低迷が栽培面積の減少の一因にもなっているため、今後地域の観光資源として更なる産地PRや魅力発信が課題と考えます。

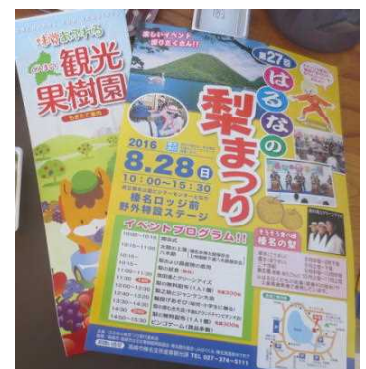
なし産地のイメージのある都道府県



ぐんまちゃんもなしを宣伝



試食提供したJAはぐくみ産のなし



観光果樹園やイベントを宣伝

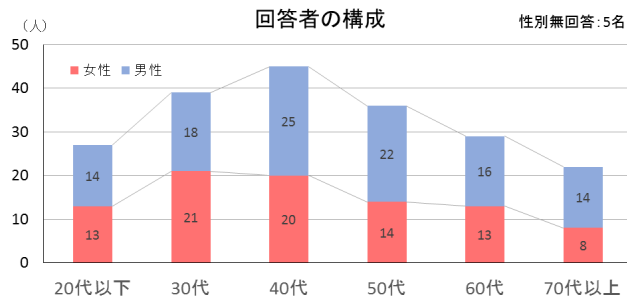
東京園芸ニュース (28年度-41号追加版)

平成28年9月 / 群馬県東京園芸情報センター

なしに関するアンケート調査結果

1 実施概要

- 日時：7月28日(木)～29日(金) 11:00～15:00 (モツ煮定食が売り切れ次第終了)
- 回答者：「ぐんまちゃん家亭モツ煮ランチ」(2階イベントコーナー)の来場者
- 回答者数：206名



2 試食した本県産なしの食味評価

本県産なしを試食提供し、食味等の評価を受けたところ、各項目5点満点で表及びグラフのとおりであった。

甘味は平均3.9点で、4点評価とする方が半数以上であった。一方で、酸味は弱い(1点評価)とする方が多かった。総合的なおいしさでは平均4.1点と、甘さと同様に5点評価よりも4点評価が多かった

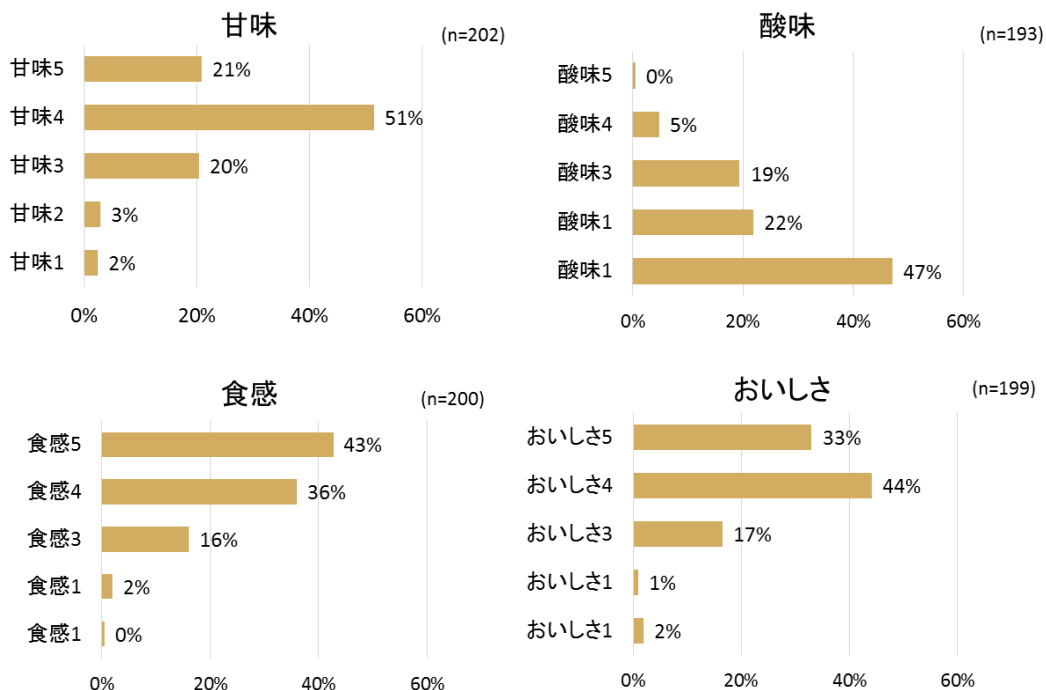
本県産なしの食味評価

甘味	3.9
酸味	1.8
食感	4.2
おいしさ	4.1

※5点満点評価
※酸味評価は数値高いほど酸味が強いことを表す。

その他回答者からは以下のような感想も聞かれた。

- ほどよい固さと甘味で良かった。
- 水分が多い割に、味もあって美味しかった。
- 酸味はなく、甘味がほどよくおいしかった。
- 甘味はあるが、みずみずしさがもの足りない。
- もう少しシャキシャキしたものが好き。シャッキリ感が欲しい。
- 特徴が無い。



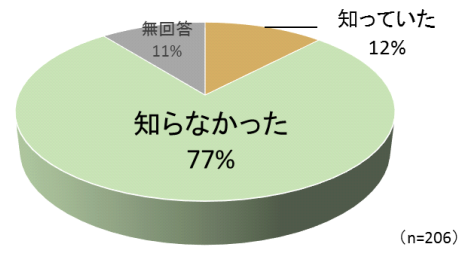
3 本県産なしの認知度となし産地のイメージ

「群馬県がなしの産地である」ということを知っていたかどうかを聞いたところ、「知っていた」という回答が12%に留まり、非常に低い結果となった。

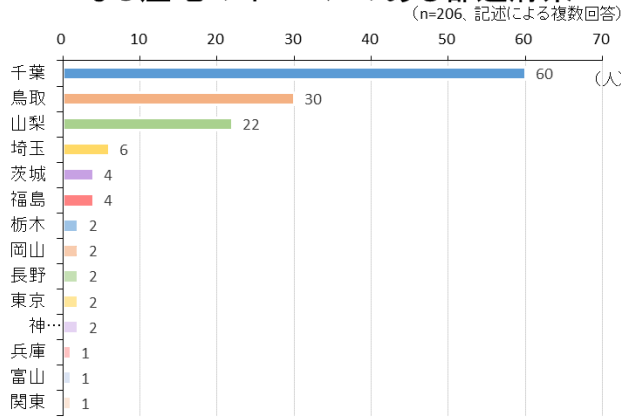
また、なし産地のイメージのある都道府県を聞いたところ、千葉県が最も多く60名、次いで鳥取県（30名）、山梨県（22名）と続いた。また、千葉県の船橋や市川、東京都の稲城という回答もあった（表、グラフは都道府県で分類）。群馬県はなし産地のイメージとして回答は無かった。

ちなみに、全国で日本なしの出荷量が最も多いのは千葉県で、次いで茨城県、栃木県と続き、本県は第13位に位置している。一方で産地のイメージが第3位である山梨県の出荷量は第41位で、イメージと実態に大きな相違が見られた（ちなみに山梨県は西洋なし出荷量で第12位）。（農林水産省平成26年産果樹生産出荷統計）

群馬県産なしの認知度



なし産地のイメージのある都道府県



なし産地のイメージのある都道府県

順位	産地	回答数(人)
1	千葉	60
2	鳥取	30
3	山梨	22
4	埼玉	6
5	茨城	4
6	福島	4
7	栃木	2
8	岡山	2
9	長野	2
10	東京	2
11	神奈川	2
12	兵庫	1
13	富山	1
14	関東	1

都道府県別日本なしの出荷量(平成26年産)

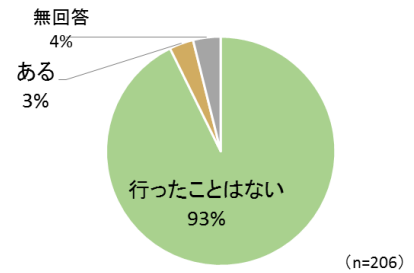
順位	産地	出荷量(t)	占有率
1	千葉	32,100	13%
2	茨城	25,700	10%
3	栃木	20,200	8%
4	福島	18,200	7%
5	鳥取	17,000	7%
6	長野	14,000	6%
7	新潟	10,800	4%
8	福岡	10,000	4%
9	大分	9,530	4%
10	熊本	9,240	4%
11	埼玉	8,900	4%
12	愛知	6,360	3%
13	群馬	4,890	2%

※出典：農林水産省果樹生産出荷統計

4 本県のなしの観光直売所について

本県のなしの観光直売所を訪れた経験の有無を聞いたところ、206名中7名(3%)とわずかの人数に留まった。そのうち3名の行き先は高崎（榛名）であった。

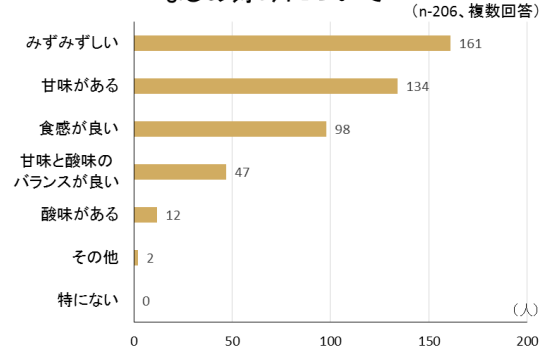
群馬県内のなしの観光直売所へ行った経験



5 なしの好みについて

なしの食味に対する好みについて聞いたところ、「みずみずしい」が161名と最も多く全体の78%が回答した。また、「甘味がある」は134名で65%、「食感が良い」が98名で48%となった。

なしの好みについて

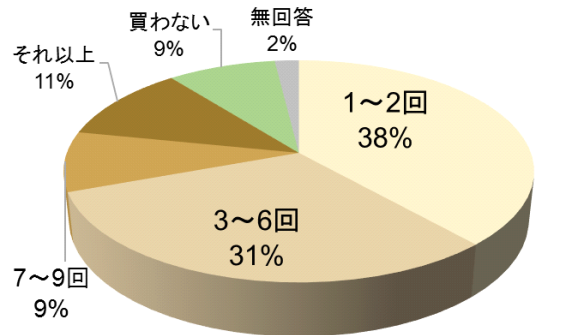


6 なしの購入頻度

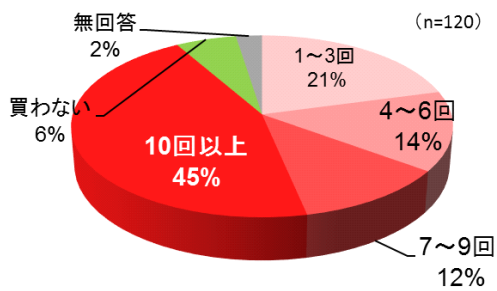
なしの年間購入頻度を聞いたところ、小売期間が限定されることもあり、「1~2回」が最も多く38%で、次いで「3~6回」の31%となった。年代別に見ると、高齢層ほど購入頻度は高く、若齢層は購入頻度が少なかった。

ちなみに、年間通じて販売されているりんごの場合、年間購入頻度は「10回以上」が最も多く45%であった（27年度11月実施の同様の調査より）。

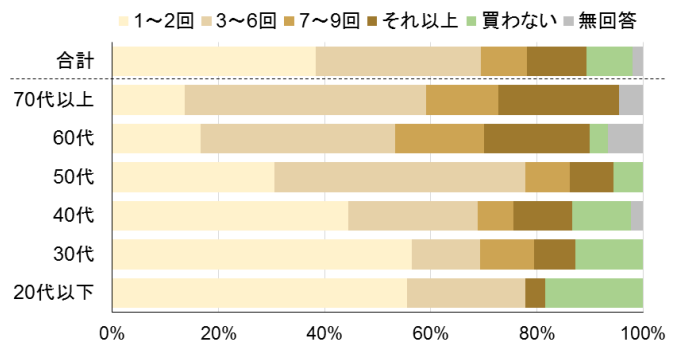
なしの年間購入頻度 (n=206)



りんごの年間購入頻度 (n=120)



なしの年代別年間購入頻度 (n=206)

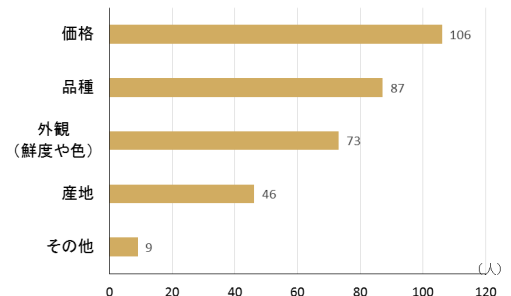


7 なしを購入する際に重視すること

なしを購入する際に重視することを聞いたところ、価格が106名と最も多かった。次いで品種、外観（鮮度や色）と続いた。

その他意見として、「店のおすすめ」、「糖度」、「産地直送」等があった。

なしの購入時に重視すること (n=206、複数回答)



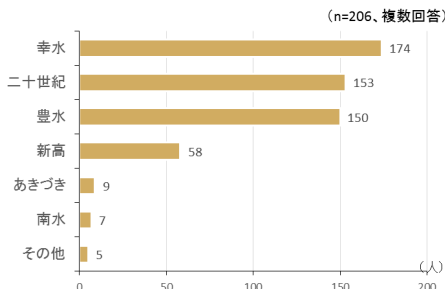
8 なしの品種について

数多くあるなしの品種の中で、食べたことのある品種を聞いたところ、幸水が174名（84%）で最も多く、二十世紀と豊水も70%以上と多かった。また、年代別では新高が50~60代で他の年代に比べて多い傾向が見られた。

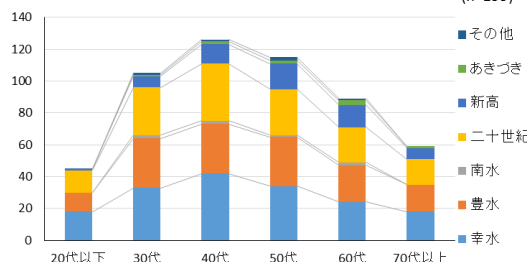
その他の品種として、「香梨（又はかおり、正式名称は平塚16号）」、「長十郎」という回答があった。

ちなみに、全国のなしの品種別栽培面積は表のとおりで、最も多いのは幸水（4,315ha）であり、食べたことのある品種第1位と一致した。（農林水産省平成25年産特産果樹生産動態等調査）

食べたことのあるなしの品種 (n=206、複数回答)



食べたことのあるなしの品種(年代別) (n=199)



梨の品種別栽培面積 (平成25年産)

品種	栽培面積(ha)
1 幸水	4,315
2 豊水	2,858
3 新高	1,001
4 二十世紀	823
5 あきづき	371
6 南水	262

出典：農林水産省特産果樹生産動態等調査

さらに、好みのなしの品種を聞いたところ、幸水が他の品種と差をつけて最も多く、次いで豊水、二十世紀、新高の順となった。

品種	回答数(人)
幸水	38
豊水	17
二十世紀	15
新高	6
長十郎	1

9 その他の意見

■ なしに関すること

- 群馬がなしの産地とは知らなかったが、思っていたよりもシャリシャリしておいしかった。
- 最近の果物は一般に酸味を排除し過ぎていると感じてる。適度な酸味は果物の証であると思うが。
- 群馬が産地と知らなかった。ぐんまちゃんを使うなどもっとアピールしては？
- 同時にいただいた果樹園の地図がわかりにくい。

■ その他

- 群馬県は車がないと観光しにくいイメージがある。バスなど充実すると良いが。